

環境都市宣言パブリックコメント実施結果

実施期間 平成24年1月18日（水）～2月17日（金）
意見件数 2件

ご意見	内容
<p>環境都市宣言を行うこと、新生栃木市にふさわしい新鮮な提案であり、大賛成です。</p> <p>意見を申せば、前文の「環境の継承者」で、今の環境をただ継承すればよいのか、という問題が残ります。</p> <p>かつて巴波川も永野川も澄んだ水の流れる素晴らしい川でしたが、今はその面影さえありません。谷中村のあったところは、赤渋沼、赤麻沼、石川沼があり、川魚が豊富にとれましたが、今はその沼が消失しています。つまり、昔の豊かな環境に戻す必要があるのです。それで、上記の部分を「豊かな環境の創造的な継承者」と変えることを提案します。</p> <p>つぎに、「環境都市とちぎ」をめざすことをここに宣言します。」とありますが、目指すべき環境都市の内容が明確ではありません。21世紀には、生物多様性の保護と、持続可能性の維持が世界全体の課題となっていますので、その点を明らかにすべきです。したがってこの部分は「生物多様性をはぐくみ、持続可能な「環境都市とちぎ」をめざすことをここに宣言します。」とすることを提案します。</p>	<p>前文中「一人ひとりが環境の継承者となり、「環境都市とちぎ」をめざすことをここに宣言します。」を</p> <p>「一人ひとりが豊かな環境の継承者となり、自然と共生し、持続可能な「環境都市とちぎ」をめざすことをここに宣言します。」に変更します。</p>
<p>新旧の宣言を比較して、前文について感じたことを記します。</p> <p>新は、環境問題への自覚、訴えがあきらかに後退しています。</p> <p>旧では、私達のこれまでの生活の仕方についての反省とともとれる表現がありました。これは、環境問題を自らの責任とする考え方で、環境問題に取り組む姿勢として大事なことであり、はずしてはいけないと思います。</p> <p>環境問題についての重要なキーワードは、これまでの反省と将来への責任につきます。</p> <p>旧に比べ新の前文は、総じてありきたりで伝わるものを感じません。</p> <p>時代の要請も反省と責任であることをふまえ、ここで後退せず一歩でも前進した環境都市宣言であることを願います。</p>	<p>前文中「わたしたちの周りでは、地球温暖化をはじめとする様々な環境問題が生じています。」を</p> <p>「わたしたちは、より便利で快適な生活を求めた結果、地球温暖化をはじめ、生態系の変化など、様々な環境問題に直面しており、今、わたしたちが行動をおこさなければなりません。」に変更します。</p>